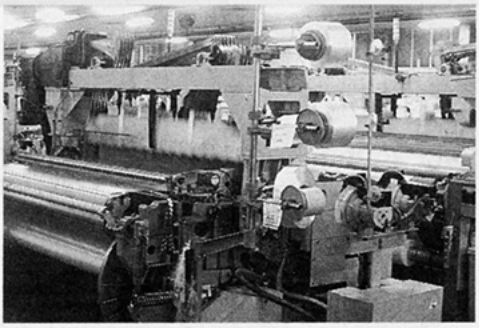
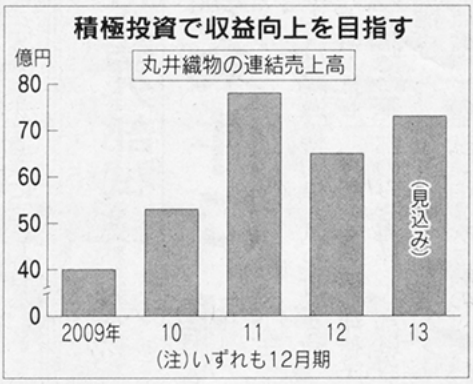
競争力強化へ投資倍増

丸井織物 新鋭機導入など10億円

生地製造大手の丸井織物（石川県中能登町）は今年の設備投資額を前年の2倍になる10億円と大幅に増やす。最新鋭の織機を導入するほか、生地を織る前の準備工程で使う機械の機能を高める。台湾や韓国など海外勢との競争が激しくなっており、付加価値の高い製品を生産して収益の向上を目指す。



最新鋭の織機導入などで海外勢に対抗していく（石川県中能登町の本社工場）



織機は4億円を投じて最新鋭機への更新を進める。横糸を空気で送る「エアジェットルーム」タイプは現在120台を保有するが、このうち20台を8月にも入れ替える。すでに1月には800台ある横糸を水で送る「ウオータージェットルーム」を40台更新した。

新型機の導入で、より細かい模様が入った生地や保温性を高めるなど高機能の生地を織れるようにする。同社が得意とするコートやジャケット向けの厚手の生地で付加価値の高い新製品を開発し、新型機で生産する計画だ。

織機以外では「整経」と呼ばれる、織機に糸を均一に送る工程で使う機械の改造に2億円を投資する。20デニール（デニールは長さ9千メートル当たりのグラム数で糸の太さを表す単位）という細い糸にも対応できるようにするほか、糸をまとめるために使うのりの濃度の精度を高める。整経は生地を織るための準備工程。同工程の機能を高めることで、付加価値の向上や効率的な生産を目指す。

生産性の向上にITを積極活用する。不良品の発生を抑えるため、整経機にセンサーを取り付け、糸の品質を検査する機械を導入して海外産の糸を中心に検査する。IT関連には2億円程度を投資する予定で、これまで蓄積した織り方の工夫や織機の稼働状況など生地生産に関するデータを分析し、生産改善につなげることも目指す。

織機の性能向上などで台湾や韓国といった海外勢も国内企業が得意としている付加価値の高い生地生産を増やしている。人件費など製造コストの安さを武器に、国産品からシェアを奪うことを狙っている。新型織機の導入などで質の高い生地を効率的に生産し、海外勢に対抗する。

丸井織物は1956年設立。2012年12月期の売上高は65億円だった。